

俺の妹がアノカ留学しても  
こんなBAD ENDにはなかな  
ない



桐乃が  
スポーツ留学のために  
アメリカに旅立つて  
数ヶ月……

結果を出すまでは  
帰れない、と  
言っただけから  
一度も連絡を  
してこないが……  
もう心配は  
していない。

きつと今も  
陸上に打ち込んで  
いるんだろう。  
だからオレは  
桐乃の邪魔に  
ならないように  
アイツを信じて  
待つと決めたんだ。

「どうだ？キリノ！  
オレのチンポはっ！」

ズ  
チ  
ユ

ズ  
チ  
ユ

ああん♡

ひゃん♡

「あひん♡  
いいよ、マイク  
もっとおチンポ  
ぶち込んでっ♡」

ひあつ♡

「ほくら  
キリノ、  
おクスリの  
時間だぞ」

「あはっ♡  
早くおクスリ  
ちょうだい♡」

ホ  
ア

「それでももっと  
気持ちよくしてえ♡」





「さっさっさっ♥」

ビクッ

キタ

キタあ  
キタキタあああー!!  
おクスリ、  
しゅきいいい!

ビクン♥  
ビクン♥

キョッ

ガッ  
ガッ

「オオウツ!  
マンコがすげえ  
締めつけてくるぜ。」

「ハハハッ  
いくらなんでも  
キメ過ぎだろw」

「あひっいいい♥  
イクの  
止まんないさささ♥」

「ひぎいいいいい!  
気持ちよすぎるうううう♥  
いぐう♥いつてるう♥  
おマンコかっつに  
いつてるよほおお♥」

「おいおい、  
「発キメたくらいで  
へたるなよ。」

「あひゃあ♥  
いいよおお...♥  
あだま、まっしろおで  
バカになっただあ〜  
いひひっ♥」

「お前のことなんて  
どうでもいいんだよ!  
後がつかえてんだから  
さっさと起きろ!!  
このビッチが!」

あだまコワれて  
しんじやうん♥

あひっ♥しにゅう

しんじやうん♥

ビクッ

ビクッ

連絡をまったく  
してこなかった  
桐乃から  
突然、メールがきた。

「アンタに預けた  
あたしのコレクション  
ぜんぶ捨てて」

その短く端的なメールに  
違和感を感じ、  
何度も桐乃に  
連絡したが、  
音信不通になって  
しまった。  
急に不安感に襲われ  
オレは一人、  
アメリカに行くことにした。

「おいっキリノ!  
お前にお客だ!」

「くううううん!  
外人チンポ  
おつきいいいい!  
臆内キツキツっ♡」

「き、  
桐乃っ!?!」

外人チンポ  
もつときでえ♡

マイケルのザーメン  
いっぱいちょうだいっ♡

「桐乃!  
お前なにを  
してるんだ!?!」

「あへ?  
アニキ……?  
いなんでここに  
なんのお?」



「ああ〜わかったあ〜  
いつもの幻覚だあ〜」

「アニキが  
こんなところに  
いる訳ないもんね〜」

「き、桐乃  
やめろ！  
お前なにしているか  
わかつてるのか!?!」

「あはっ♥  
ホンモノの  
アニキみたいなの  
こと言つて。  
カワイイ〜♥」

「うあっ！  
や、やめてくれ  
桐乃お！」

「えへへっ♥  
アニキの皮被りチンコ、  
じゃぶつてあげる♥」

「ならまた  
シテあげるね♥」

「お、おい！  
お前  
どうしたんだ！」

「こりやおもしろえw  
こいつら兄妹で  
やっちまうつもりだぜw」

「うわあああっ！」

「ジュッ  
ビク  
ビクッ」

「あむっ♥」

「チュッ  
パッ」

「カキヤ」

「カキヤ」

「シッコ」

「シッコ」

「くほっ」



数週間後

「おにいちゃん  
おクスリしてえ  
それからおチンポで  
桐乃のおマンコ  
ぐちゅぐちゅしてえ」

「なに言ってるんだよ、  
キリノ。  
お前の兄貴は  
お前を見捨てて  
帰っちゃったろうが。」

ねえ  
おにいちゃん  
何してるの？  
早くく・・・

「もうオレ等と兄貴の区別も  
つかなくなってやがるなw」

「ねえ、おクスリ  
はやく〜♡  
おチンポも  
ちようだい〜♡」

「なあ、またいつに  
ウリさせようぜw」

「こんな便所より汚ねえ中古、  
買うヤツなんていんのかよw  
オレ等だつてタダマンだから  
使つてんのによ。」

「日本人はウケがいいから  
こんなんでも客は来るってw」

くばあ

「しろうがねえなりw  
すぐにキメてやるよ！」

アキユ

「うにゃあああああ♡  
おくじゅり、ぎだああー♡」

「おぼおああああ  
ぎぼちいいいい♡  
おにいちゃんっ  
だいでぎだよおおおおああああ♡」





備 の 録